

作品のイメージや世界観を構築する際の活用事例

～画像を使ったプレゼンテーションと学び合い～

取組の 難易度	(準備)		
	(教員のICT活用能力)		
校種・学年	小学校・第3学年	教科等	図画工作
ICTを活用した 学習場面	A1 教員による教材の提示 B3 思考を深める学習 C1 発表や話し合い	領域・ 分野等	A 表現 (1) ア B 鑑賞 (1) ア 【共通事項】 (1) ア イ
ICT 機器等の 準備等	準備	学習者用PC 学習支援ソフト(本時はロイロノート・スクールを使用) 画像(動画)の撮影、描画、データ共有等の基本的なことができればよい	
	授業	学習者用PC 提示用大型モニター	

1 事例の概要

身の回りにあるものや、お気に入りのものを乗り物に変身させて、絵(平面)で表現する活動の中で、作品のイメージや世界観を組み立てる場面を設定する。児童が自分の好きなもの、気になったものを撮影し、グループ活動の中で、自分が撮影した画像を紹介したり、アイデアを一緒に考えたりすることに活用する。

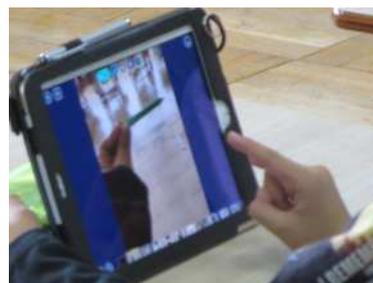
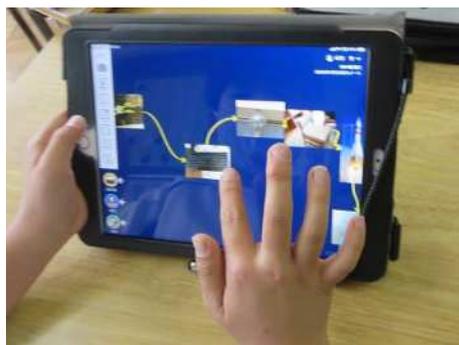
利点○、配慮事項

2 ICT活用の利点や配慮事項

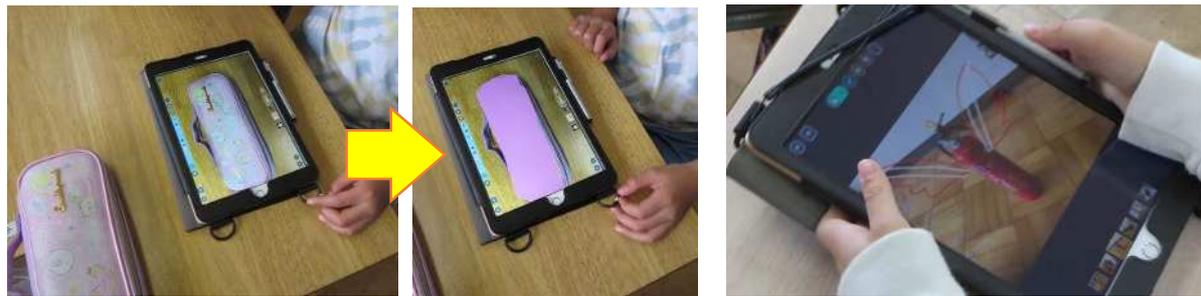
- 思いついたこと、考えたことが、直ちに表現できる。
 - イメージを固めるまでの工程が簡略化されるとともに、友達との共有化も容易となる。
 - 相手に伝える力、発表する力(プレゼンテーション能力)を養える。
 - 他の授業や活動への汎用性がある。
- 画像や写真を使用する際のルールやモラルについての指導をする必要がある。

3 資料

自分が撮影した画像をデータで管理し、友達に紹介(プレゼンテーション)する画像を選んでいる。また、自分が説明しやすいように、画像の順番を入れ替えたり、相手に伝わりやすいように、コメントやしるしを入れたり、画像を撮り直したりしている。



思いついたことや考えたことを、直接画像に描きこみ、作品のイメージを確認している。



自分のアイデアを紹介したり、友達から意見をもらったりしている。



全員に伝えたいことは、大型モニターに映している。

児童に手元の学習者用PCで見せることも可能。



指導を充実させ、児童の思考を深めさせるために、学習者用PC・大型モニター・黒板を、場面ごとに効果的に使い分けることも必要。

ネットワークを使って、提出を行っている。



家庭学習等で取り組ませた場合には「提出BOX（フォルダー）」へ提出させる。



授業の中で提出BOXを作成

他の場面でも活用できそうなこと

色の塗り方や道具の使い方の動画を何度も確認しながら創作ができる。

絵具や色鉛筆を使わなくても、事前に配色や混色の様子が確認できる。

友達の作品や活動の様子を適宜確認することができる。

自己評価カードに作品の画像をつけることで、活動の記録（ポートフォリオ）・変容がわかる。

上記以外にも、鑑賞や発表の場面で、ICTの利点を生かした活動を実践することが可能である。